

2026(令和8)年度 第4回別府市人権教育学級

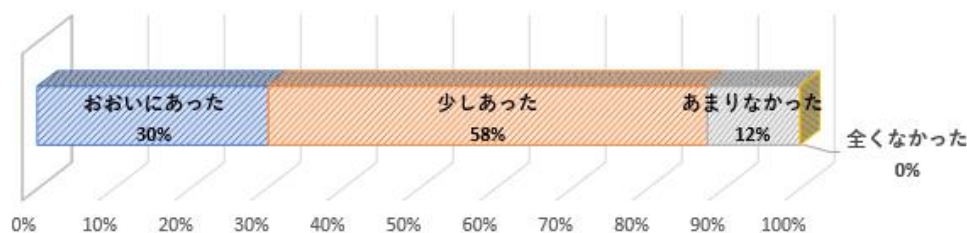
- 1 日 時 2026(令和8)年9月10日(木曜日) 14時～16時50分
- 2 場 所 別府市社会福祉会館 多目的大広間
- 3 テーマ 「外国人の人権」
- 4 演 題 多文化に生きる子どもたちとともに
～多様性が豊かさになる学校・社会をめざして～
- 5 講 師 別府市立中部中学校 日本語指導員 立山 愛さん
協力者：ファテメさん(小・中学校に通うイラン出身児童生徒の保護者)

6 講座のねらい

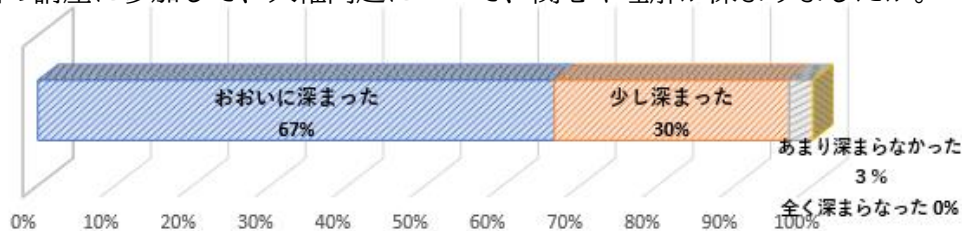
- ・多文化・多言語環境に生きる子どもたちの見えにくい課題とアイデンティティを、体験を通して理解する。
- ・外国人児童生徒等教育の考え方を知り、人権尊重の視点に立ち、多様な子どもたちを包摂する学校・地域づくりを描ける。

7 参加者アンケート結果

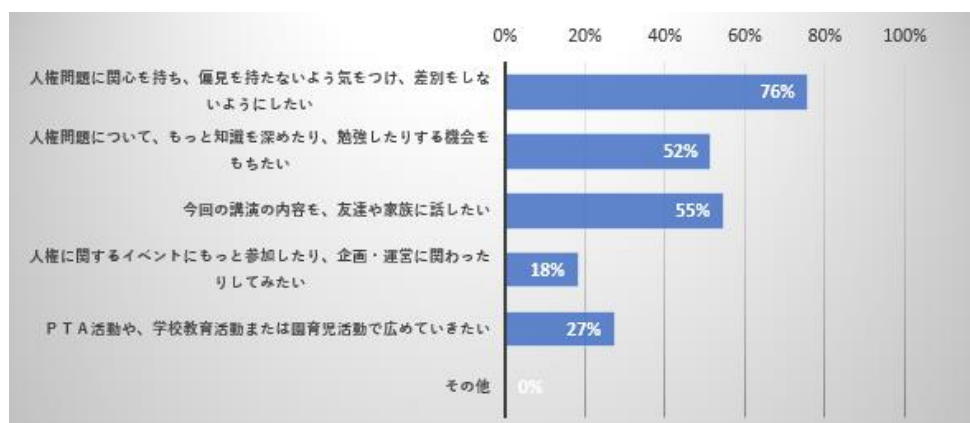
(1) 今回の講座に参加する以前に、人権問題についてどのくらい関心がありましたか。



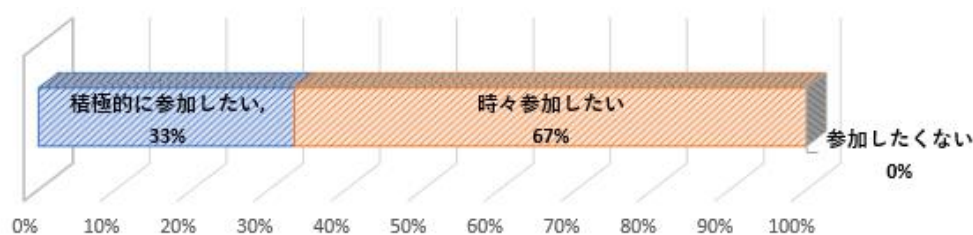
(2) 今回の講座に参加して、人権問題について、関心や理解が深まりましたか。



(3) 今回の講座に参加して、行動しようと思ったことはありますか(複数回答可)



(4) 今後もこのような講座に参加したいと思いますか。



8 学習会の様子



9 参加者の感想

- ・「ここはイランの小学校」を体験してみて、多文化に生きるこどもがどんな気持ちで日本語の授業に参加して、教室内で過ごしているのかが、ほんの少しですが、分かった様な気がしました。頭の中がグルグルしてとても不安な気持ちになりました。知らなかった事を知る事ができ、考える時間をもつ事ができた事に感謝です。行政がもっと柔軟に変わっていくことを願います。
- ・外国から来たこどもはきっと大変だろうと理解していたつもりですが、実際に今日ペルシャ語の授業を体験してみると本当に想像以上でした。たくさんの国の人々と触れ合うことが身近な別府に住んでいるこどもたちには「同じってうれしい、ちがうって楽しい。」という言葉のとおり、優しい気持ちをもって成長していったほしいなと感じました。(外国語(自分のわからない言語)での授業はこどもにも体験してみしてほしいなと思いました。)
- ・先生のお話を聞いてとても心がいたみました。まだ、心も発達段階のこどもたちが一生けん命適応している姿。適応できずに不登校になっている方もいると聞いてつらかったです。私にも何かできることはないかと心から考えます。先生のようにこどもさんによりそってくれる方がふえるといいし、自分もそうなりたと思いました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・日本に来て、こどもたちに不安にさせないように、「強い母親でいよう」としたファテメさんのすがたにとても感動しました。移民問題などあり、厳しい現実もありますが、偏見を持たない気持ちを常に意識したいと思いました。
- ・日本語がしゃべれる人、知っている人が外国からきていると思い込んでいた。異国の言葉での授業は逃げたくなった。わからないは、怖いと思った。相手がわかるように、伝えるがどれだけ大切かわかった。仕事場で気を付けたいと思う。学校に、外国の方が日本語を学べる場所が少ないのは、優しくないと思った。知らなかったことがはずかしくなった。